

令和7年度

地域とともにある学校づくり

保谷第一小学校 1年生

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名： きせつとなかよし
(活動名)

ねらい：

- ・屋敷林の自然物にはたらきかけ、冬の様子について気付いている。
- ・生き物や樹木、草花を観察し、それらとの関わり方を工夫している。



紙芝居では、春と秋の違いについてイラストを交えて説明して頂きました。紅葉の下の素敵な空間での紙芝居は別世界に来たようで子供たちも大喜びしていました。質問タイムでは、「紅葉はどうして赤い部分と緑の部分があるの?」「屋敷林ではどんなお世話をしているの?」など、興味津々に聞く姿が見られました。



お気に入りの葉っぱや木の実を見つけて、オリジナルかんむりを作りました。「この葉っぱは真ん中は黄色で外側は赤だね。」と、葉っぱの様子にも注目しながら活動していました。保存会の方にケヤキの実を見せて頂いたり自分では気付けない気付きも得られた時間となりました。



野草園では、秋見つけピンゴとして、赤や茶色、ぎざぎざ、秋の音、木の実など、秋ならではの植物や花を見つけました。ピンゴにあてはまる植物を見付けると、積極的に保存会の方に声を掛けて質問する姿も見られました。

まとめコラム

「竹をどうして切ってしまうんですか?」という素朴な子供たちの疑問から、竹を間引くことで他の竹が元気に育つこと。間引いた竹も無駄にならないように柵に再利用していること。それでも余った竹は竹炭として活用していること。竹炭を燃やして残る灰は肥料として活用して、捨てるところが一つもないという話をして頂きました。他にも、鳥が木の実を食べて他の場所で糞と一緒に落とすことで、植物は子孫を増やしていることも教えて頂きました。それらを聞いた子供たちは「捨てる場所がないなんて、すごい!!」「木は動けないもんね。」「アサガオを育てた時も間引いたよね。」と嬉しそうに感想を共有していました。全ての命は巡っていることを、屋敷林と保存会の方々には教えて頂きました。